

長崎市障害者自立支援協議会 相談支援部会

■相談支援部会 令和7年度 活動報告

日 時	内 容
<p>【コア会議】 4月11日(金) 15:00~17:00</p>	<p>① 今年度計画の確認</p> <p>② 相談支援事業所の見つかる体制整備について →セルフプランの活用や相談支援事業所の地域体制整備に向けて委託相談支援事業所(つどい・さち風・いんくる)管理者と部会長が面談。各管理者からの助言を部会内でセルフプランの積極的促進は困難であること、相談支援専門員の担い手を増やしていくこと、委託相談支援事業所の役割などを協議</p> <p>③ 地域体制強化共同支援加算の活用方法 →長崎市障害福祉課より、加算取得に向けた準備等の説明を受ける</p>
<p>【コア会議】 5月12日(月) 15:00~17:00</p>	<p>① 長崎市の障害福祉サービス等の手続き(しおり)の見直し →就労選択支援の中立性等の確保やモニタリングの注意点等の記載を行った。</p> <p>② 地域生活支援拠点整備と加算の進捗について →長崎市障害福祉課より今年度内には加算取得できるよう準備していくとの連絡があり、部会内でも協議。加算取得に向けてフローチャート作成を開始、必要書類等の準備に着手</p> <p>③ 相談支援事業所の見つかる体制整備について →部会メンバーより事業所に従事している相談支援専門員を集め、現場の声や困り事など収集してはどうかとの提案を受け、6月に実施予定で準備開始</p> <p>④ 医師の意見書申請に向けて →数名の相談支援専門員より医師の意見書申請をしたいが、今はできない状況であるため部会内で協議をお願いしたいとの要望を受け、協議開始</p> <p>⑤ 就労選択支援や初任者研修について →就労選択支援の研修予定であったが、事業開始後の実績が不透明であるため時期を検討。初任者研修は相談支援従事者初任者研修会終了後の12月に向けて実施予定とした</p>
<p>【連携会議】 6月11日(水) 15:00~17:00</p>	<p>① 相談支援の課題について</p> <p>② 相談支援員が見つかる取り組み・工夫できることについて →上記の内容について26事業所、39名の相談支援専門員で協議</p> <p>●相談支援専門員が見つかる取り組み・工夫できることについて</p> <p>1)相談支援の地域分けが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリア毎に委託事業所が受付可能事業所に問い合わせる。 ・エリア毎の事業所間でコミュニケーションを取る。 ・エリア毎に相談できる場を設ける。 ・エリア、障害種別、児・者毎の会議の開催。 ・エリア毎の関わりの場を作る。 ・エリア毎のミーティングの開催にて情報交換。

	<ul style="list-style-type: none"> ・line の活用。エリアの line を作り、事業所が発信しやすくする。 ・介護保険(地域包括支援センター)を参考にエリア分けする。 ・拠点を設け、拠点で状況を把握する。 <p>2)エリアに限らない相談の場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス等利用計画案の見本があるといい。(参考にできる事例を共有できる機会。案や考えてくれる場所。) ・相談支援専門員が相談できる場所があるといい。 ・新しい制度等の勉強会があると安心。 ・行政からの指導監査について知ることができると安心。 ・電話等にも報酬を付け、相談支援の励みを作る。 ・協働型(3 事業所)になったため、情報共有する機会が増加した。 <p>3)その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパー不足等の社会資源不足 ・電話対応に追われて、書類作成や他業務ができない。 ・勤務時間の調整が困難になった。
<p>【コア会議】 8月18日(月) 15:00～17:00</p>	<p>① (長崎市障害福祉課より) 保育所等訪問支援の必要性の判断について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更新手続きの必要書類(案)を2種類作成している。 ＊チェックシート・・・保護者より提出 ＊意見書・・・事業所より提出 <p>セルフプランと計画相談の両方に提出必須の方向を考えている。 障害福祉課内で検討し、10/1 開始を予定。</p> <p>② 地域体制強化共同支援加算について</p> <ul style="list-style-type: none"> →地域生活支援拠点等について、部会長より市担当者へ進捗状況等確認し、次回部会時に共有。 ・相談支援従事者指導者養成研修受講の江口相談支援専門員より記録書の見本資料説明。 <p>③ 6月の連携会議について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域分けの体制が必要であり、地域分けの相談支援体制は委託相談支援事業所のエリアで検討していく。 ・相談支援専門員の自宅訪問について利用者、その家族に向けて理解を求める文書を作成することを検討。 ・計画書やモニタリング作成の方法など初任者研修の企画案に取り入れていく事を検討。 <p>④ 地域体制強化共同支援加算のフローチャート案を協議</p>
<p>【コア会議】 9月11日(水) 15:00～17:00</p>	<p>① 長崎市への確認事項</p> <ul style="list-style-type: none"> →主治医意見書・相談支援専門員の訪問必須の記載について <p>② 地域体制強化共同支援加算について</p> <ul style="list-style-type: none"> →加算取得の整備。事業所指定や事例の検討等を協議。 <p>③ 初任者研修の企画について</p>
<p>【コア会議】</p>	<p>① 居宅でのモニタリングについて(配布資料参照)</p>

<p>10月14日(火) 14:00~16:00</p>	<p>→自宅訪問必須について簡素化して更新書類等の中に表記できないか障害福祉課で再検討する。</p> <p>② 主治医意見書の開示について →介護保険課の様式を使用する方向で検討中。</p> <p>③ 長崎市内の計画相談支援給付費請求状況について →各種加算の請求件数が、少ない状況。部会メンバー内にも加算の事務手続きが負担となるため取得していないとの意見あり。</p> <p>④ 地域体制強化共同支援加算について →フローチャートの共有 →あいさぽーとより事例提供。</p> <p>①期間限定で登校時の移動支援が支給された事例 ②家族や他支援者での年金申請が難しく、申請をサポートした事例 *年金申請は多機関が関わり対応したケースもある。 *サービス調整以外の対応が必要なケースが多い。</p> <p>⑤ 初任者研修の企画検討 ⑥ 委託地区勉強会の開催 →エリア分けの相談支援体制整備に向けて開催実施。</p>
<p>【コア会議】 11月11日(火) 15:00~17:00</p>	<p>※相談支援従事者現任研修受講者 7名インターバル参加</p> <p>① 居宅でのモニタリングについて →11月の更新書類から「利用中の方へのお願い」を同封予定。「利用中の方へのお願い」文中の“義務”を“必須”など柔らかい表現に変更し、市からのお願いであることを明記。 →初回面談時等に相談支援専門員が利用者へ説明できるよう、市HPの相談支援部会ページに「利用中の方へのお願い」のデータを掲載する。</p> <p>② 主治医意見書開示について →代金収納等も含めて、取得までの流れを検討中。</p> <p>③ ヘルパーが見つからない件について<今月の部会で出た意見> →ヘルパー事業所のデータベース化 →ヘルパー支援の情報(支援内容や時間帯など)を掲示板などに掲載し、ヘルパーステーション側が対応可能な利用者を見つけるマッチングサイトのような仕組み。 →利用時間の見直しも必要ではないか。 →自立生活援助の機能。 →ヘルパー事業所や地域包括支援センター単位の連絡協議会と連携する。</p> <p>④ 初任者向け研修の最終確認。</p> <p>○インターバル参加者の感想 ・自宅訪問の必要性について理解が深まった。 ・情報が届くまでに複数機関で協議が行われていることを実感した。 ・地域体制強化共同支援加算等について新たな知識を得た。</p>
<p>【初任者研修会】 12月25日(木)</p>	<p>○初任者研修受講者 23名/懇親会 34名 【受講者アンケート結果】 ・初任者研修では説明のなかった具体的な申請書類や申請方法について理解できた。</p>

<p>15:00~17:00 【懇親会】 同日 18:00~20:00</p>	<p>プランやモニタリングに関しても訓練が必要だと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービスや申請について説明があり、理解が深まりました。モニタリング報告書の書き方については、詳細を知りたかった。 ・漠然と理解していた事が明確になった。 ・他の方の話を聞いて、自分とは違うところがあって勉強になった。 ・サービスの流れ、日々の業務でやっているところを再確認できた。 ・詳しく説明があり理解できた。 ・書類の作成・提出などの実務的なところが難しかった。 <p>【今後の研修等に期待するもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規事業所で情報が少ないため、先輩方の話を聞きたい。 ・自分以外の人意見を聞きたい、色々な方と話してみたいから。 ・他の事業者の方との繋がりが深まればと思います。 ・最新情報も含め、関係機関との繋がりも増やしたい。 ・相談支援事業を立ち上げた際に相談できる関係性を築きたい。 ・実際のプランの勉強ができた ・不安や、疑問が解消された。 ・楽しく分かりやすく学べる 皆さんと一緒に安心出来る。 ・受給者証の見方などの説明もじっくり聞きたい。 ・事例検討会などを行い、地域資源を学びたい。
<p>【コア会議】 1月13日(火) 15:00~17:00</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 初任者研修の振り返り ② 社会資源の不足(主にヘルパー)への対応方法について <ul style="list-style-type: none"> →初任者のペースで主任相談支援専門員が作成した計画案など見てもらってもいいのではないかと。出来るだけ継続して受講したいとの意向があり、コース研修などあればいいのではないかと感じた。 →相談支援のしおり(マニュアル)の普及啓発が必要。 →ヘルパーの地域加算が創設されないか。 →ヘルパーの支給量や必要性について改めてサービス等利用計画書の見直しなどが必要。ヘルパー不足であれば地域を作るしかない。 ③ 次年度の部会計画作成案について <ul style="list-style-type: none"> →支給量やサービスの見直しなど相談支援専門員の【相談力の向上】が重要ではないか。相談員の価値観も違うこと、それぞれの視点が違う、もう一歩進んで自分の強みを増やしていく方法を検討。 →地域生活拠点の整備や自立生活援助の活用などの検討が必要。 <p>※次年度の計画に向けて今年度の振り返りシート等の作成依頼を行う。</p>
<p>【コア会議】 2月12日(木) 15:00~17:00</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 令和7年度 部会報告書案について <ul style="list-style-type: none"> ・利用者に適切なサービス量を過不足なく支給されるようにしたい。 ・相談支援専門員のスキルアップも必要。 ・福祉サービス以外の社会資源にも目を向けていきたい。 ・相談支援部会の理念があると、取り組みがわかりやすくなると思う。 ・コアメンバー増員の検討。 ・新任相談支援専門員が立ち立てできるまでのマニュアル化。 ② 令和8年度 年間計画案について <ul style="list-style-type: none"> (ア)ワーキンググループ体制について

	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域づくり部門(課題検討含む)」、「人材育成部門(マニュアル含む)」の部門を部会内で作り、PDCAの促進を図る。マニュアルの普及啓発を人材育成部門で取り組む。 ③ 次年度の相談支援部会のスローガン <ul style="list-style-type: none"> ・相談力の向上 ・相談支援事業所が見つかりやすい体制整備 ④ その他 <ul style="list-style-type: none"> ○地域生活支援拠点について <ul style="list-style-type: none"> ・部会で出た現状課題を運営会議で報告する。 ・相談支援部会として、拠点についてのワーキンググループは作らない。 ○地域体制強化共同支援加算について <ul style="list-style-type: none"> ・やまぼうしの事例を提示予定。 ・事例について相談支援専門員への周知ができなかった。 <ul style="list-style-type: none"> →相談支援専門員が参考にできるように自立支援協議会のホームページを活用したい。 ・ホームページや加算活用については、人材育成部門で話し合う。 ・今後は事例の有無にかかわらず、毎月の協議事項に「地域体制強化共同支援加算について」を入れる。
<p style="text-align: center;">【コア会議】 3月11日(水) 15:00～17:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 次年度の相談支援部会運営について 次年度は相談支援事業所が見つかり難い課題に対して取り組む『地域づくり部門』と相談支援専門員の相談力向上を目的とした『人材育成部門』を設置。各部門のメンバーを決定し、別添の『令和8年度相談支援部会年間計画』を作成した。 ② 相談支援部会コアメンバーの見直し ③ 主治医意見書の取得に向けた手続き等については次年度も協議継続。

■今年度の活動を振り返っての成果・今後の課題等

【成果】

・今年度は相談支援専門員の困り事や課題を抽出し、利用者や保護者に向けた「相談支援専門員の訪問支援の理解」をお願いする文書の作成、主治意見書の申請請求について協議を進めた。又、従来の「相談支援事業所が見つからない」といった課題については、多くの相談支援専門員より地域分けの相談支援体制が必要であり、地域を分割して連携を図っていく必要があるのではないかとの助言を受けた。これらの提案に対して委託相談支援事業所と協議を行い、委託地区を北西部と南東部に分けて研修会を実施した。次年度も委託地域での勉強会や連携会議を実施し、抽出された課題を相談支援部会で取り上げていながら長崎市の地域相談支援体制を促進させたいと考える。

・「自立支援協議会は個別の事例を通じて地域課題の抽出や検討が必要である」との目的から個別事例を報告及地域課題として検討可能とする地域体制強化共同支援加算について協議してきた。その結果、事例検討の場を相談支援部会と位置付け、加算取得のフローチャートを作成し、10月には加算の請求が可能となり、事例検討を実施することが出来た。

・従来から実施している初任者研修を行い、新型コロナウイルス感染流行時期から取り止めていた懇親会を開催することができた。

【今後の課題等】

・「相談支援事業所が新規を受けることができない」「ヘルパー事業所が見つからない」といった従来からの課題

があり、実効性の伴う解決方法を見出せていない。地域分割した相談支援体制の整備を図りながら相談支援専門員と顔の見える関係を強化しながら長崎市とも協議しながら課題解決を図っていきたい。又、特にヘルパー事業所の不足に関しては南部や西部が顕著であり、地域課題として今後も協議をしていく。

- ・相談支援部会のメンバー増員を図り、部会の活性化を図る必要がある。
- ・地域生活支援拠点の整備に向けた協議が必要であり、相談支援部会内から運営会議等へ議案の提出などなされてこなかった。今後は部会内で決定する事項と運営会議で諮る事項を分けて運営していく必要がある。
- ・地域体制強化共同支援加算の指定事業所を増やし、事例の積み上げを行う必要がある。事例報告によって相談支援専門員の相談力の向上に繋げる仕組み作りが必要である。